

Message

皆様、本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。
ご存知のとおり、本年2月に、【若手芸術家を育てる会】として音楽
法人を立ち上げました。企画アドバイザーとして、鳥居大輔先生に
参画していただきました。

事業内容、今後のイベントにつきましては、当法人のホームページ
：<https://yy-a.or.jp/>にアクセスしていただければ幸いです。

今後は、趣旨にご賛同いただける企業様・個人様の賛助会員も
募り、内容も豊かに活動していきたいと思っております。すでに会員登録
していただいた皆様には、心より御礼申し上げます。

本日は第1回のこけら落とし公演をゆっくりとお楽しみください。

一般社団法人 YY Association
代表理事 高橋容子

一般社団法人 YY Association

<https://yy-a.or.jp/>



第1回 YYA Music Concert

Program

2019.9.28 (土)

12:30 Open 13:00 Start

浦安音楽ホール@ハーモニーホール

第1部 小野寺陸 サクソフォンリサイタル

ドビュッシー「アルト・サクソフォンとオーケストラの為のラプソディ」

1840年代に誕生したサクソフォンは、オーケストラや吹奏楽で主に用いられる管楽器の中でも新しい楽器であり、そのため他の管楽器と比べ、同時期の著名な作曲家による作品はほとんどない。

印象派を代表するC.ドビュッシーによって書かれた色彩感溢れるこの曲は、サクソフォンの黎明期における重要なレパートリーであり、サクソフォンの歴史を語る上で欠かす事のできない曲である。

ミヨー「スカラムーシュ」

1937年のパリ万博で演奏するための曲を委嘱されたミヨーは、自らが作曲した2つの喜劇の付随音楽から流用し、2台のピアノ用として手早く完成させたが、意外にも好評を博し、ミヨーの代表曲となった。

外交官秘書としてリオデジャネイロに2年滞在し、ブラジル音楽の影響を受けた彼らしく、フランス流でありながら陽気でサンバ風のリズムが取り入れられた楽曲である。

(ピアノ伴奏 鳥居大輔)

第2部 鳥居大輔 ピアノリサイタル

ベートーヴェン「ピアノソナタ第14番 月光」

作曲者本人はこの曲を「幻想曲風ソナタ」と名付けている。1楽章でいきなり葬送を彷彿とさせるような緩やかなテンポは、当時としては異例であった。楽章が進むごとにテンポが上がり、強靱なベートーヴェンの意思を思わせる、揺るぎのない帰結で終わる。

シューベルト「さすらい人幻想曲」

全4楽章が切れ目なく演奏される。2楽章に、自身が作曲した歌曲「さすらい人」がテーマとなっていることから、このタイトルが付けられた。

作曲者本人が難しすぎて弾けず「こんな曲は悪魔にでも弾かせてしまえ!」とキレたエピソードは有名。

美しいメロディーの中にも、ちらほら悪魔的な音顔を出している、もしかしたら、本当に何かに憑かれたように作曲されたのかもしれない…。

第3部 生演奏でお届けするクラシックバレエ

ショパン「ワルツ op.69-2」 ダンサー:藤崎英恵 百瀬雅浩

1829年頃に作曲された。この頃、まだ弱冠19歳だったショパンは、同じワルシャワ音楽院に通うコンスタンチエに恋をしていた。青年の悩ましげな恋のうたは、この曲にも脈付いているであろう。

(ダンサーより:この作品を初めて見たとき踊ってみたい!と感じた作品です。優美で繊細な動きが難しいですが、音を感じながら表現し踊りたいです。)

(ピアノ:高橋容子)

ショパン「ピアノ協奏曲第1番第2楽章」 ダンサー:堀浩子 藤崎英恵 豊浦亜希子

ワルツop.69-2が作曲されたとされる1829年から1年後の1830年に作曲された。ショパン自身がこの曲について「美しい春の夜の、月光を浴びながら瞑想する、そのようなものでもある」と手紙に記している。今回はオーケストラが演奏する部分の主要な音を取り出して、サクソフォンとデュエットを奏でる。

(ダンサーより:素敵なピアノの音色とサクソフォンとのデュエットでとても豪華です。演奏の中で舞えることが今から楽しみです。贅沢な音色と空気感をお楽しみください。)

(サクソフォン:小野寺陸 ピアノ:高橋容子)

ショパン「ワルツ op.42」 ダンサー:堀浩子 百瀬雅浩

ショパン円熟期の1840年頃に作曲された。この曲をショパン自身が「最も高貴なサロン楽曲である」と評した事で、サロン音楽というものの価値を引き上げたと言われている。華やかでありながらも、決して楽観的ではない曲調がそれを物語っている。

(ダンサーより:この作品は、男女のペアで作られています。コミカルな振り付けもありながら、クラシックバレエのテクニックも入っており、2人の駆け引きなども、楽しんでいただけるよう踊りたいです。)

(ピアノ:鳥居大輔)

ショパン「エチュードop.25-4」 ダンサー:豊浦亜希子

ショパンは、全27曲のエチュード(練習曲)を作曲していて、その中の16曲目にあたる。それまでの他の作曲家のエチュードとは違い、高度な技術と音楽的センスを同時に必要とする。op.25-4は左手の跳躍、右手の旋律と伴奏を両者同時にこなす技術を求められる。

(ダンサーより:底をつくようなリズムに乗りながら、上では流れるような旋律と身体の動きを目指して、ピアノと一体になり音を踏みます。音1つ1つに身体を乗せていけたらと思います。)

(ピアノ:鳥居大輔)

エルガー「威風堂々」 ダンサー:堀浩子 藤崎英恵 豊浦亜希子 百瀬雅浩

「威風堂々」は、イギリスの作曲家エルガーが、1901年~1930年頃に全6曲(6曲目は未完)として作曲された行進曲の総称を示す。

誰もが必ず耳にした事があると言っても過言ではないくらい有名な旋律が、本日演奏させていただく第1番。イギリスでは「希望と栄光の国」(Land of Hope and Glory)と称され、第2の国歌として愛されている。

(ダンサーより:ピアノとサクソフォンという豪華な演奏にバレエが加わり、躍動感ある曲と華やかな舞台をお楽しみいただけるとと思います。音とダンサーの踊るパワーをお届けしたいと思います。)

(サクソフォン:小野寺陸 木下祐菜 ピアノ:鳥居大輔)